

# 令和4年度浜中町立茶内小学校の学校経営に当たっての理念

皆さんと一緒に「子どもが育つ学校」をつくりたい



令和4年4月1日(金)

浜中町立茶内小学校長 富田 直樹

**「学校経営の理念」とは、校長が学校経営を行うに当たって、根底にある根本的な考え方のことです。**



## <経歴紹介>

- 平成元年4月～ 網走市立第三中学校教諭
- 平成9年4月～ 蘭越町立蘭越中学校教諭
- 平成15年4月～ 余市町立東中学校教諭
- 平成19年4月～ 北海道立教育研究所企画・研修部研究研修主事
- 平成21年4月～ 才木一ツク教育局教育支援課義務教育指導班指導主事
- 平成24年4月～ 釧路教育局教育支援課義務教育指導班指導主事
- 平成25年4月～ 釧路教育局教育支援課義務教育指導班主査
- 平成28年4月～ 才木一ツク教育局教育支援課義務教育指導班主査
- 平成30年4月～ 根室教育局教育支援課長
- 令和2年4月～ 才木一ツク教育局義務教育指導監
- 令和4年4月～ 現職

学校勤務：18年 行政勤務：15年

※小学校勤務経験はなく、15年振りの学校勤務です。



# 浜中町立茶内小学校「学校教育目標」

- 思いやりのある子
- 自ら鍛える子
- 進んで学ぶ子

これって、私たち大人にとっての目標でもありますね。

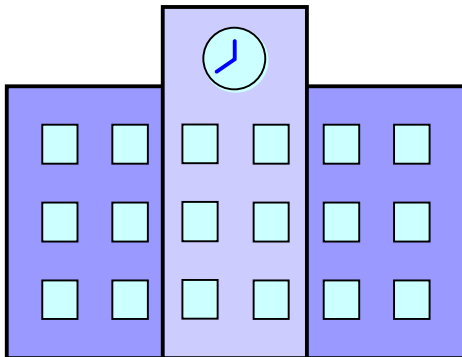
- **互いが尊重し合い、互いの力量を高め合う**
- **自分の仕事に自信と誇りをもつ**
- **日常的に授業の話をする**
- **自分自身と向き合う時間を大切にする**
- **子どもの姿に学ぶ**

# 新しい教育に対応できるようにする

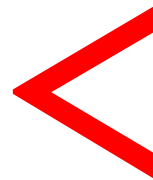


# 学び合う協働文化を学校文化にする (大人も子どもも)

共同文化（同質同調性）が原則



個々の主張



組織メンバー全員の協調  
(同調)

**学び合う協働文化をつくるためには、**

- **同僚性（関係性）を構築する**
- **不安や恐れ、強いストレスによる孤立を防ぐ**

**心理的安全性**



# サーバント・リーダーシップ



「サーバント・リーダーシップ」とは、トップダウンで何でも決めるのではなく、皆さんの声に耳を傾け、意見を丁寧に聞きながら、一緒に考えて決めていくスタイルのことです。

校務分掌経営

学級・学年経営

判断・決定

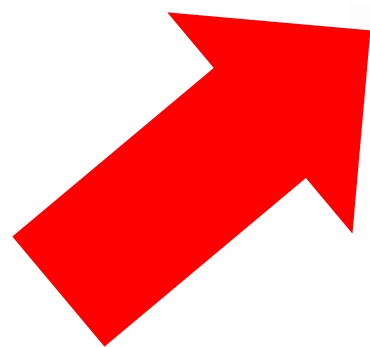
学習指導

生徒指導

最後は私が責任をとります



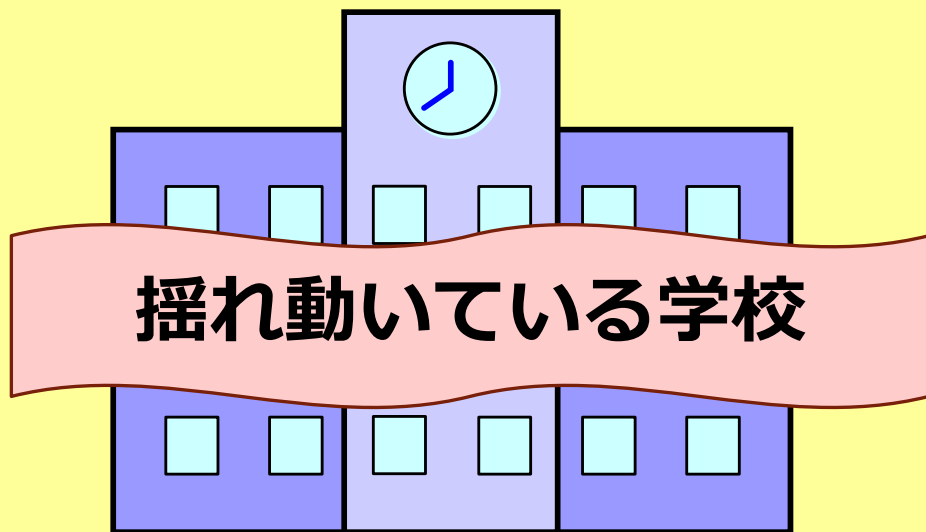
挑戦  
—チャレンジ—



# これからの時代の学校に求められるもの

新学習指導要領全面实施

学校における働き方改革の推進



GIGAスクール構想の実現

新型コロナウイルス感染症対応

「社会に開かれた教育課程」の実現

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、**どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら**、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要になる。

小学校学習指導要領「前文」(一部抜粋)

社会に開かれた教育課程

育成を目指す資質・能力

# 小学校学習指導要領 前文

これからの学校には、こうした教育の目的及び目標の達成を目指しつつ、一人一人の児童が、自分のよさや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。このために必要な教育の在り方を具現化するのが、各学校において教育の内容等を組織的かつ計画的に組み立てた教育課程である。

教育課程を通して、これからの時代に求められる教育を実現していくためには、よりよい学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を学校と社会が共有し、それぞれの学校において、必要な学習内容をどのように学び、どのような資質・能力を身に付けられるようにするのかを教育課程において明確にしながら、社会との連携及び協働によりその実現を図っていくという、社会に開かれた教育課程の実現が重要となる。

学習指導要領とは、こうした理念の実現に向けて必要となる教育課程の基準を大綱的に定めるものである。学習指導要領が果たす役割の一つは、公の性質を有する学校における教育水準を全国的に確保することである。また、各学校がその特色を生かして創意工夫を重ね、長年にわたり積み重ねられてきた教育実践や学術研究の蓄積を生かしながら、児童や地域の現状や課題を捉え、家庭や地域社会と協力して、学習指導要領を踏まえた教育活動の更なる充実を図っていくことも重要である。

児童が学ぶことの意義を実感できる環境を整え、一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割である。幼児期の教育の基礎の上に、中学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながりを見通しながら、児童の学習の在り方を展望していくために広く活用されるものとなることを期待して、ここに小学校学習指導要領を定める。

小学校学習指導要領「前文」(文部科学省)一部抜粋



日常の実践で迷うことがあったら、この「前文」に立ち返ってみてください。進むべき方向性が見えてきます。

# 「出藍の誉れ」時代を創造する学校教育



文部科学省初等中等教育局財務課長  
合田 哲雄 氏

未来社会はあらかじめ用意されている、すでに「ある」ものではありません。目の前の子どもたちが「創る」ものです。だからこそ、「教育」は教師をはじめとする大人が子どもたちに働き掛けることにより未来社会の創造を手助けする営為。未来社会はこうだから子どもたちにはこんな教育をしなければならないという受け身の発想ではなく、こんな未来社会を創っていくために、今子どもたちにこんな資質・能力を育もうという積極的な意思が求められています。

AIの飛躍的進化、Society 5.0、第4次産業革命といった耳慣れない言葉であふれている今、最も大事なものは、目の前の子どもたちが自立して未来社会を切り拓いていくために必要な資質・能力をいかに育むかという教育の原点です。そして、私たち大人に求められているのは、創造性や社会的公正、尊厳といった価値で支えられた我が国にふさわしい持続可能な成熟した未来社会を創ろうとする意思であると改めて考えます。



「出藍の誉れ」とは、「弟子がその師よりも優れている」ことです。つまり、「子どもたちが親や教師を越えていく」と解釈できますね。



学校経営の目的（目指す子どもの姿）

自分の足で立って、自分の頭で考え、他者と対話できる子ども

学校経営の目標

個人と社会の幸福

学校経営の目標を達成するためには、

- 自律：責任ある行動をとる力
- 尊重：対立やジレンマを調停する力
- 創造：新しい価値を創造する力

そのベースとなるのが、

当事者意識



改めて「子どもが育つ学校」へ

子どもを育てる学校

から

子どもが育つ学校

へ